

**2007年度 社団法人 天草本渡青年会議所  
委員会年間事業報告書**

委員会名：青少年育成委員会

担当副理事長名：宮崎琢磨

委員長氏名：森泰憲

副委員長氏名：山元賢明

委員氏名：赤城多郎、前田正隆、村田勝貴、上剛司、荒木泰匡、益田友和、櫻田清季  
野崎亜季子、平川昌二

・ 事業名【昔の遊び伝承！今日だけ昭和40年代】

1. 事業目的

（対内）

地域の方々から、昔の遊びや風習を習いメンバー自らが体験し、それを子どもたちに伝えていく機会とする。

（対外）

メンバーが子どもたちへ昔の遊びを伝えることで、伝統や風習を学んでもらう。

2. 実施日時・場所

（日時）

平成19年3月11日（日） 午前9時～午前11時45分

（場所）

西の久保公園

3. 参加人員

（外部）関係諸団体 76名

（内部）理事・役員 19名

メンバー 19名

その他 名

---

合計 114名

4. 事業内容

（目的達成の為の手法説明）

（1）本渡北民生員に今回の事業の趣旨を説明し協力してもらい、メンバーに昔の遊びや風習を伝えてもらう。また、事業当日は、本渡北民生員にオブザーバーとして参加してもらい、メンバーが子どもたちに昔の遊びや風習を伝える手助けをしてもらう。

（2）子どもたちに伝える方法として、小学校低学年5～7名、園児5～7名、計10～14名で4班に分かれてもらい、各昔の風習・遊びコーナーをローテーションで体験してもらう。

（参加推進方法）

- （１）募集区域を実施区域の旧本渡市に絞り募集し、小学校低学年及び保育園、幼稚園の後援会に依頼する方法と保育園、幼稚園及び小学校に、訪問し子どもたちに周知してもらう方法で参加を推進します。

５．手 段

地域の方々に昔の風習や遊びを教えていただき児童や園児に伝える。

６．成 果

- ・子どもたちに外で遊ぶ楽しみを感じてもらえた。
- ・凧の作り方、風車の作り方を時間内によく伝えられなかったが、設計図を渡すことによりそのフォローができた。
- ・メンバーも自ら体験し凧の作り方、風車の作り方を覚えることができ、その経験を次の機会に生かすことができる。

７．引 継 事 項

- ・他団体に依頼する際の対応には気をつけてください。
- ・園児や児童の低学年の対応は難しいところがありますが、素直に喜んでくれる姿を見て「やってよかった」と思いました、是非来年もやってみてください。

・ 事業名：【打ち水推進事業】

1. 事業目的

(対内)

昨年、熊本ブロック協議会において地球温暖化抑制のため打ち水大作戦が実施され、実際に温度を2.4℃下げることができました。本年は、その事業を受け継ぎ実施することにより、メンバーに地球温暖化に対しさらに関心を持たせ、通常生活においても地球温暖化対策を実践し、その運動を拡大することを目的とする。

(対外)

一般の方へ事業をとおり地球温暖化問題へ関心を持ってもらい、その風習を復活・定着させることを目的とする。また、(社)天草本渡青年会議所運動をPRすること。

2. 実施日時・場所

(日時)

事業実施日：平成19年8月4日(土)午後6時35分から午後6時40分

(場所)

天草市上町・中央通り～船之尾通り

3. 参加人員

(外部)関係諸団体(子ハイヤ)1000名

(実行委員会)112名

(内部)理事・役員 15名

メンバー 16名

その他(観客) 15000名

---

合計 16143名

4. 事業内容

(目的達成の為の手法説明)

子ハイヤで地球温暖化対策の1つである打ち水を実施し実際温度が下がることを証明する。また、当日に事前配布するチラシの中には通常生活でもできる取り組みを掲載する。

(参加推進方法)

(1)打ち水の効果・大切さをメンバーに知っていただくよう、早い段階から周知徹底を図る。

(2)スムーズな進行を行うために、天草ほんどハイヤ祭り実行委員会に協力頂き、子ハイヤ実施前にメンバーでエリアを決めて地域の方々にチラシを配布する。

5. 手 段

夏季に行われるイベントに合わせて打水を推進する。

---

## 6. 成 果

- (1) 地球温暖化に関心を持つメンバーが増えた。
- (2) 作成したチラシを遠藤の観客に配布することにより、地球温暖化対策についてアピールできた。

## 7. 引 継 事 項

- (1) 打ち水は地球温暖化へ関心を持ってもらうための手段としては、簡単に出来、多くの参加者で実施出来る事業ですので是非来年も実施して下さい。
  - (2) バケツの配置及び給水方法は軽トラックを利用した方法が効率的でした。来年の参考にして下さい。
  - (3) 打ち水事業へのメンバー参加者の呼びかけの際は、子ハイヤ参加者と子ハイヤスタッフが把握できるようにして下さい。
  - (4) 打ち水の準備は時間がかかりますが、打ち水自体はすぐに終わります。少し時間がかかる打ち水の方法を検討するか、又は実施時間を1分で計画して下さい。
  - (5) 当日、雨が降っても実施時間に雨が降っておらず、路面が乾いている状態であれば打ち水の効果は体感できます。中止する場合の判断基準として下さい。
  - (6) チラシやポスターは地球温暖化に関心を持ってもらう手段として効果的だと思うが、配布するタイミングについて(前日に家庭に配布するや子ハイヤ終了後に配布するなど)、の検討が必要。また、チラシのレイアウトについても家に飾ってもらえるぐらいのものが理想的です。
  - (7) 運営マニュアルを作成したら当日ではなく、もっと早い段階で配布して質問等の機会を設けメンバーに把握してもらって下さい。
  - (8) 周辺地域へも早めに周知し事業当日にはバケツや水を持参してきてもらい事業に協力してもらう方法についても検討ください。
  - (9) 今後引き続き事業を続けるのであれば、不足分のバケツ400個の購入について検討ください。また、今回購入したバケツは2階の倉庫に保管してありますが、数が増えると置けなくなるかもしれませんので、保管場所についても検討ください。
  - (10) 事業毎の使用印刷枚数について把握出来るようにしておいて下さい
-

・ 事業名：【もっと知ろうよ天草の海】

1. 事業目的

(対内)

天草の海には多種多様な生物が生息しており、その多様性こそ天草の海の豊かさであり特徴であると考えます。天草の自然のすばらしさを子どもたちと一緒に体験学習することにより再認識し、そのすばらしさをより多くの人へ伝え天草の自然環境についての意識向上へとつなげる。

(対外)

体験学習をとおして、天草の自然を五感で感じてもらい、天草の自然のすばらしさを理解してもらい、そのすばらしさを誇りに思ってもらう。また、その自然を守っていくにはどうしたらいいのかをみんなで考え、実践できる優しい子どもになってもらう。そして、共同生活をとおして協調性を身につけてもらうとともに、子どもたち同士のコミュニケーション能力の向上を図る。

2. 実施日時・場所

(実施日)

「みんなで知ろうよ天草の海」(事前学習会)

平成19年7月8日(日)午前9時～午後13時15分

「もっと知ろうよ天草の海」(キャンプ)

平成19年8月25日(土)午前9時～

平成19年8月26日(日)午後5時まで

「台風で延期になる前のキャンプ予定日」

平成19年7月14日(土)午前9時～

平成19年7月15日(日)午後5時まで

「もっともっと知ろうよ天草の海」(事後学習会)

平成19年9月8日(土)午前9時～午前12時20分

(場所)

天草市御所浦町牧島 旧牧島小学校跡地

3. 参加人員

【計画人数】

【参加実績】

みんなで知ろうよ天草の海(事前学習会)

(外部)関係諸団体 38名 (外部)関係諸団体 29名

内訳 小学校5・6年生 30名 内訳 小学校5・6年生 28名

看護師 2名 看護師 0名

講師 1名 講師 1名

(内部)理事・役員 23名 (内部)理事・役員 15名

メンバー 40名 メンバー 15名

(内当委員会) 10名 (内当委員会) 6名

合計 101名 合計 59名

もっと知ろうよ天草（キャンプ）

（外部）関係諸団体	38名	（外部）関係諸団体	37名
内訳 小学校5・6年生	30名	内訳 小学校5・6年生	25名
看護師	2名	看護師	2名
講師	1名	講師	0名
（内部）理事・役員	23名	（内部）理事・役員	22名
メンバー	40名	メンバー	21名
（内当委員会）	10名	（内当委員会）	9名
合計	101名	合計	80名

もっともっと知ろうよ天草の海（事後学習会）

（外部）関係諸団体	38名	（外部）関係諸団体	18名
内訳 小学校5・6年生	30名	内訳 小学校5・6年生	18名
看護師	2名	看護師	0名
講師	1名	講師	0名
（内部）理事・役員	23名	（内部）理事・役員	18名
メンバー	40名	メンバー	9名
（内当委員会）	10名	（内当委員会）	5名
合計	101名	合計	45名

4. 事業内容

（目的達成の為の手法説明）

- （1）天草の海には、多種多様な魚介類が生息していることを教え、実際に生息していることを漁や海底観察により体験してもらう。多種多様な魚介類が生息しているのは、誇るべき天草の特徴的な自然環境であることを伝える。
- （2）その誇るべき天草の特徴的な自然環境を維持しつづけていかなければいけないということを伝え、どうしたらいいのか考える機会を設けて共通の目標を定めることで、将来、自分たちが天草の自然を守って行かなければならないという気持ちをもたせる。
- （3）事業をとおしての一連の作業を、グループごとに役割分担して実施することにより協調性を身につけてもらう。また、グループごとの話し合いの場や共同作業の場を設けることでコミュニケーション能力の向上を図る。
- （4）事前学習会 キャンプ 事後学習会と3回の体験学習の場を設けることにより、より理解しやすい事業の実施を目指す。

（参加推進方法）

- （1）教育委員会にお願いして各学校へ依頼文を配布してもらう。
- （2）各小学校を訪問して校長先生並びに担当の先生に事業趣旨を説明して、子どもたちの参加呼びかけに協力してもらう。また、PTAへの呼びかけを依頼する。

5. 手 段

天草の自然と人との共存生活を調査し、小学生と一緒にその生活を体感する。

## 6. 成 果

- (1) 事業をとおして、天草の水産資源が減少していることを理解してもらえた。また、その原因がなんなのか考えるきっかけとなった。
- (2) 天草の水産資源は減少しているが、それでも天草の海には多種多様な生き物が生息しており、その多様性こそが天草の海の豊かさであることを再認識してもらえた。
- (3) とんとこ漁をとおして天草の海には色々な生き物がいることが解ってもらえた。
- (4) 伝馬船に乗ることにより海遊びの楽しさを感じてもらえた。
- (5) 海底観察により天草の海のすばらしさを感じてもらえた。
- (6) 一緒に寝食を共にすることにより子ども達同士が仲良くなったことで、コミュニケーション能力が向上し、協調性を身につけてもらえた。
- (7) 自分達で捕った魚を調理して食べさせることにより、魚を食べられない子どもが魚を食べれるようになったのは、天草の海を好きになってもらういいきっかけとなった。

## 7. 引 継 事 項

### 【事前学習会】

- (1) 保護者用の資料は事業行程や緊急連絡先が解る資料を用意した方がよい。

### 【キャンプ】

- (2) テントを設営する場合は1カ所だけでなく数カ所の地盤の確認をして下さい。
- (3) 団体での調理は、時間がかかります。余裕のある時間配分をして下さい。
- (4) 無駄がでないように調理する量は食材と水の分量で調整して下さい。
- (5) 現地調査は予行練習でもあります。時間を作って現地で一通りの行程を実行して下さい。その時に参加者にレポート等を書いてもらうようにし、スケジュールや必要な備品、不必要な備品の再検討資料として下さい。
- (6) 子ども達がやってはいけないことは、メンバーもやらないよう周知徹底をしてください。
- (7) 去年の組織図を参考に作成しましたが、その事業に応じた組織図を作成して下さい。
- (8) 子ども達への注意事項は厳しく対応して下さい。
- (9) 今後、猛暑での事業実施になる可能性は十分に考えられますので、その環境変化に対応したスケジュール変更等も検討して下さい。
- (10) 備品については、あるかないかだけでなく使えるかどうかについても確認するようにして下さい。
- (11) 1日目の夜にメンバーがミーティングする時間を設けるようにして下さい。
- (12) 今回の事業で開催場所が変更となったのは、施設予約の再確認等が確実に出来ていなかったためでもあります。また、日程について今回は潮の干満を考慮した事業だったので仕方がないところもありましたが、子ども達の

参加とうを考えるとあまり期間が空かない予備日を設けた方がいいです。

- (13) 事業を運営する上では、前日乗り込みしての準備は効率的でした。計画的に前日乗り込みを実施することが可能ならば実施してみてください。

**【事後学習会】**

- (14) 先輩や他団体又はメンバーから備品や材料等をお世話になるときの対応はきちんとした対応をして下さい。

**【予算】**

- (15) 予算計上の際、前年度の予算を参考にしましたが、差異がありました。必ず見積もりを取ってから予算計上をして下さい。

- (16) 委員会運営等での印刷は、コピーを多用せず原稿をチェックした上で印刷して下さい。また、ペーパーレス会議をするなどの委員会運営を心掛けてください。

**【その他】**

- (17) メンバーに何かを習得してもらう場合、難しいものは前もってきちんと習得できるようにして下さい。

- (18) 当日の飲酒について再度協議ください。

- (19) 子どもたちに渡す報告書CDは、写真だけでなく子どもたちが作成した広用紙等を取り入れる等工夫を加えて思い出に残る内容にしてください。また、子ども達に渡す前には少なくとも三役には確認をしてもらって下さい。

・ 事 業 名 【 例 会 議 事 録 の 作 成 保 存 】

1 . 事 業 目 的

( 対 内 )

例会での発言者の意図が正確に伝わるような議事録を作成し、正確な資料として記録を残す。

( 対 外 )

関係機関に提出する必要があるため。

2 . 実 施 日 時 ・ 場 所

通年 ( 例 会 開 催 時 ) ・ 例 会 会 場

3 . 参 加 人 員

( 外 部 ) 関 係 諸 団 体 名

( 内 部 ) 理 事 ・ 役 員 2 名

メンバ ー 9 名

そ の 他 名

---

合 計 1 1 名

4 . 事 業 内 容

( 1 ) 例 会 議 事 録 の 作 成

5 . 手 段

( 1 ) 議 事 録 に つ い て は 、 メ ン バ ー が 手 分 け し て テ ー プ 及 び レ コ ー ダ ー に よ り 、 効 率 的 に 作 成 す る 。

6 . 成 果

( 1 ) I C レ コ ー ダ ー を 活 用 す る こ と に よ り 、 委 員 会 メ ン バ ー で 手 分 け し て 、 正 確 な 資 料 と し て 議 事 録 を 残 す こ と が で き た 。

( 2 ) 翌 例 会 時 に 議 事 録 を 回 覧 す る こ と に よ り 、 出 席 で き な か っ た メ ン バ ー に も そ の 様 子 を 少 し で も 伝 え る こ と が で き た 。

7 . 引 継 事 項

( 1 ) 次 年 度 か ら は 、 例 会 議 事 録 担 当 委 員 会 に お い て 、 電 子 デ ー タ の み を 作 成 し 、 総 務 担 当 委 員 会 に 提 出 、 ( 議 事 録 を 作 成 後 、 電 子 デ ー タ に て 総 務 担 当 委 員 会 に 提 出 ) 印 刷 は 総 務 担 当 委 員 会 が ま と め て 行 う よ う に し て く だ さ い 。

・ 事 業 名 【 会 員 拡 大 事 業 】

1 . 事 業 目 的

< 対 内 >

( 社 ) 天 草 本 渡 青 年 会 議 所 の 維 持 ・ 成 長 の た め 、 新 入 会 員 1 7 名 入 会 を 目 標 に 各 委 員 会 、 全 メ ン バ ー 一 丸 と な っ て 会 員 拡 大 を 行 う 。 同 じ 志 を 持 つ 仲 間 を 増 や し 、 L O M の 活 性 化 を 図 り 、 創 立 5 0 周 年 時 に は 会 員 1 0 0 名 を 目 指 す 。

< 対 外 >

J C の し お り を 作 成 し て 会 員 拡 大 を 行 う こ と で 、 候 補 者 や 地 域 の 方 々 に ( 社 ) 天 草 本 渡 青 年 会 議 所 の 活 動 を 理 解 し て い た だ く 。 ま た 会 員 拡 大 に よ っ て 今 ま で 以 上 に 様 々 な J C 活 動 が 行 え る 。

2 . 実 施 日 時 ・ 場 所

通 年 L O M エ リ ア 全 域

3 . 参 加 人 員

( 外 部 ) 関 係 諸 団 体 1 名

( 内 部 ) 理 事 ・ 役 員 2 3 名

メ ン バ ー 5 4 名

そ の 他 名

---

合 計 7 8 名

4 . 事 業 内 容

( 1 ) 会 員 拡 大 活 動 の 推 進

( 2 ) 会 員 拡 大 会 議 の 実 施

5 . 手 段

( 1 ) 担 当 委 員 会 で あ る 会 員 研 修 委 員 会 が 定 め た 委 員 会 目 標 2 名 を 速 や か に 実 行 す る 。 ま た 、 定 め ら れ た 手 段 を 委 員 会 メ ン バ ー に 周 知 し 実 行 す る 。

6 . 成 果

( 1 ) 委 員 会 目 標 で あ る 2 名 を 早 い 段 階 で 達 成 す る こ と が で き た 。

7 . 引 継 事 項

( 1 ) 会 員 拡 大 は 委 員 会 が 行 う の で は な く 、 全 メ ン バ ー が 行 う 全 体 事 業 で す 。 そ の こ と を 常 に 意 識 付 け し 、 候 補 者 状 況 を こ ま め に 発 信 し て い き 、 委 員 会 メ ン バ ー に 行 動 し て い た だ く よ う 働 き か け て 下 さ い 。

( 3 ) 作 成 さ れ た 企 業 リ ス ト を 有 効 に 活 用 せ ず に 終 了 し ま し た 。 何 処 に 候 補 者 が い る の か を 知 る こ と は 勧 誘 が ス ム ー ズ に 行 え ま す の で 、 有 効 に 活 用 し て 頂 き た い と 思 い ま す 。

( 4 ) 熊 本 ブ ロ ッ ク 内 で 会 員 数 N O 2 の L O M を 目 指 し ま し ょ う 。

## 委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内 容	出席	欠席	出席率
1	1.15	天草民報社	Part1について	7	1	88%
2	1.29	天草民報社	Part1について	6	2	75%
3	1.31	天草民報社	Part1について	8	0	100%
4	2.13	天草民報社	Part1について	5	4	56%
5	2.22	JC会館	Part1について	6	3	67%
6	3.1	JC会館	Part1について	8	1	89%
7	3.20	JC会館	Part1について	5	5	50%
8	4.12	天草民報社	Part2について	7	3	70%
9	4.17	天草民報社	Part2について	8	2	80%
10	4.19	天草民報社	Part2について	7	3	70%
11	4.24	JC会館	Part2について	7	3	70%
12	5.2	JC会館	Part2について	6	4	60%
13	5.3	天草民報社	Part2について	4	6	40%
14	5.7	JC会館	Part2について	5	5	50%
15	5.16	JC会館	Part2について	6	4	60%
16	5.21	天草民報社	Part2について	6	4	60%
17	5.29	天草民報社	Part2について	8	2	80%
18	6.4	JC会館	Part2について	4	6	40%
19	6.11	天草民報社	Part2について	9	1	90%
20	6.19	天草民報社	Part2について	6	4	60%
21	6.23	JC会館	Part2について	6	4	60%
22	7.6	天草民報社	Part2について	5	5	50%
23	7.10	JC会館	Part2について	7	3	70%
24	7.11	天草民報社	Part2について	9	1	90%
25	7.18	JC会館	打水について	9	1	90%
26	7.23	JC会館	Part2について	6	5	55%
27	7.26	JC会館	打水について	9	2	82%
28	8.12	JC会館	Part2について	10	1	91%
29	8.16	JC会館	Part2について	5	6	45%
30	8.22	JC会館	Part2について	9	2	82%
31	8.28	JC会館	Part2について	6	5	55%
32	9.3	天草民報社	Part2について	5	6	45%
33	9.7	天草民報社	Part2について	7	4	64%
34	9.20	JC会館	Part3について	5	6	45%
35	9.29	JC会館	Part3について	4	7	36%
36	10.18	天草民報社	報告書について	4	7	36%
37	11.7	JC会館	報告書について	5	6	45%
38	11.30	海鮮蔵	報告書について	8	3	72%

### 委員長所見

初理事、初委員長で青少年育成委員会、本当に大変な委員会でいろいろなことを勉強させていただきました。年間事業計画では part 1 ~ part 3 の青少年健全育成事業と打ち水推進事業の 4 本の事業を予定していました。part 3 を実施出来なかったことは悔やまれるところですが、1 年間あつという間で委員会メンバー全員一生懸命の 1 年間だったと思います。

本来であれば委員長が委員会を引っ張って行かなければならないところだったのですが、執行部、理事会そして委員会メンバー一人ひとりに様々な場面で助けてもらいました。今年は「修己」だけで精一杯の年となってしまいましたが、いずれは「修己治人」を実行できるようこれからも頑張ります。委員会メンバーの皆さん 1 年間ありがとうございました。

### 担当副理事長所見

年当初、各年齢層に別けた 3 回の青少年健全育成事業、打ち水推進事業と例年に無く盛りだくさんの内容で動き出した青少年育成委員会でした。近年小学校高学年を対象として行われている青少年健全育成事業ですが、広い年齢層の健全育成を願う委員長の強い思いで小学高低学年と園児を対象にした青少年健全育成事業 part 1 を行いました。民生児童委員さん、JCメンバー、子ども達と三世代の交流が出来て素晴らしい事業であったと思います。part 2 においては天草の自然の本質的な素晴らしさを伝え、さらに天草を愛してもらう思いで黒島キャンプを計画しました。台風による延期や直前の実施場所変更など波乱万丈の開催でしたが事業終了後の子ども達の笑顔が強く心に残っています。魚を食べられなかった参加者が魚をおいしいと食べる事ができた事は委員長の思いが伝わった証であると思います。高校生を対象とした Part 3 を行えなかったのは残念ですが全事業に参加してくれた子ども達の健全な育成には確実に結びついていると確信しています。打ち水推進事業では地球環境への意識付けの一助になりえたと思っております。昨年初めて行われ、本年度引継ぎ、また次年度へしっかりと繋いでいくことで大きな力となりえる重要な事業です。そのためにも委員会メンバーがこれからも率先して取り組んでいかなければならないと考えます。

副理事長としての的確なアドバイスができず、委員長をはじめ委員会メンバーの各事業開催までの協議はかなり厳しい修練だったと思います。一年を振り返り反省をすべきことばかりですが、たくさんの感動をいただきました。

最後になりますが、事業に携わっていただいたすべての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。